

教育方針	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた、心身共にたくましい生徒を育成する。	重点目標	明るく元気に、心豊かで力強く未来を拓く生徒を育成する —精神を修め、知と技を練る吉田高校—
------	---	------	--

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均3.2以上(1から4の4段階評定)を達成する。 A: 3.2以上 B: 2.8以上 C: 2.5以上 D: 2.0以上 E: 1.5未満	A	生徒の授業満足度は、授業評価アンケートによると平均3.8という結果となり、目標の3.2以上を上回る結果となった。	新学習指導要領に合わせた観点別評価の実践研究をすることにより、学力の向上とともに授業に対する満足度を高水準にとどめる。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、審査時学習時間平均120分以上を達成する。 A: 60分以上(審査時120分) B: 50分以上(審査時100分) C: 40分以上(審査時80分) D: 30分以上(審査時60分) E: 30分未満(審査時60分)	B	平常時学習時間は、普通科62分、機械建築工学科43分、電気電子科52分、平均54分であり、審査時学習時間が普通科211分、機械建築工学科118分、電気電子科135分、平均179分であった。	学習時間確保のために、宿題だけでなく、授業の振り返りや予習の重要性を重視しながら、各教科で課題の出し方の工夫する。
	読書習慣を身に付けさせるとともに地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の間貸出冊数一人あたり3冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A: 45日以上 B: 40日以上 C: 35日以上 D: 30日以上 E: 30日未満	B	一人あたりの年間貸出冊数は1月末現在2.3冊と目標を達成できなかった。朝の読書は53日実施し、目標を達成した。	図書委員による利用の呼びかけとともに、クラス単位での利用を更に進めて、利用者の増加を図りたい。朝の読書は次年度も継続し、内容の充実を目指す。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	年間出席率平均98%以上、一か年皆勤率55%以上、年間欠席日数5日以上を5%以内を達成する。 A: 98%以上 B: 95%以上 C: 90%以上 D: 80%以上 E: 80%未満	B	平均出席率98.5%、一か年皆勤47.2%、年間欠席日数5日以上の者が11.3%の結果となり、出席率以外は目標を下回った。しかし、一か年皆勤において3年電気電子科が71.4%を達成するなど目標を大きく上回ったクラスもある。	学校生活の充実を図るため、個々の短期目標、長期目標、進路目標をはっきりとさせる。また、5日以上の欠席者に対しては、学習の遅れによる学力低下だけでなく、就職や進学への影響などを考えさせる。
	挨拶・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	身だしなみ指導最終合格率100%、登下校時の交通事故0件を達成する。	A	身だしなみのルールを理解し、最終合格率100%を達成できた。交通事故0件を達成できた。	身だしなみ指導の意味を理解させる。身だしなみの項目を見直し、社会が求める人材育成に努めたい。交通事故0を目指し啓発活動に取り組みたい。
	部活動・学校行事の充実	部活動加入率90%以上、県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上、生徒の学校行事満足度平均3.5以上(1から4の4段階評定)を達成する。 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 60%以上 E: 60%未満	C	部活動の加入率の数値目標は達成できた。県大会での上位入賞は達成できなかった。学校行事への参加は意欲的に行えた。	部活動の加入率90%以上、県総体出場者100名、上位入賞(県ベスト4)の達成ができるように志気を高めていく。魅力ある学校行事の開催を目指し、生徒会中心に計画していく。生徒の学校行事への意欲的参加評価平均3.5以上を目指す。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	生徒一人一人の適性に合った進路指導の充実	就職試験一次合格率90%、就職決定率100%、第一志望校合格率90%、進学決定率100%を達成する。 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満（合格率）	B	・就職試験一次合格率94%（昨年度96%） 就職決定率100% ・進学第一志望合格率86%（昨年度92%） 進学決定率100% 無難な選択ではなく、上を目指した挑戦の結果、第1志望がかなわなかったと考えられる。	ミスマッチを防ぐために、進学先や就職先の情報収集や、オープンキャンパス・応募前職場見学への積極的参加を促す。また生徒への情報提供にも努める。 各教科や学年団等と連携を取り、第1志望合格に向け、早期に準備に取り組みさせる。 個に応じた指導(面接、小論、補習)を充実させる。
	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.5以上 B：3.0以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	A	生徒の満足度は、3.6（昨年度3.8） 今年度も、コロナ禍の影響を受け、病院や保育所等でのインターンシップが実施できなかった。	幅広く選択できるよう、受け入れ先の選定について考える。 受け入れ先との連携をもとに、活動内容等の充実につなげる。 事前指導や準備を通して、インターンシップの意義を理解させ、積極的に臨むよう促す。
	検定資格取得指導の充実	工業科検定資格取得平均2種目以上/人を達成する。	C	工業科検定資格取得平均2種目以上/人を目指している。まだ試験結果が未発表の資格もあるが、現在のところ、今年度の取得平均は0.9である。学年別取得平均は、1年生1.7、2年生0.4、3年生0.8であった。一方、ジュニアマイスター顕彰では特別表彰2名、ゴールド9名、シルバー8名と例年以上の成果を出した。	1年生の早い段階から、進路を見据えた資格取得の重要性を説くとともに、2年生以降についても資格取得の継続を指導する。 補習を強化し、合格率の向上も目指す。
人権・同和教育	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期1回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	C	「生活と人権に関するアンケート」を各学期1回行い、いじめに関する調査を行った。調査で気になった生徒については、その都度担任が聞き取りを行い、状況を確認し対応している。	「吉高人権だより」等を活用して、いじめ問題に対する啓発に努めるとともに、日ごろから生徒の動向に気を配り、教職員共通認識のもと、いじめの積極的認知に努める。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間3回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	A	「吉高人権だより」を11回発行した。人権委員会も、7月12月の全校集会での発表及び文化祭での展示を行ったり、制作したシトラスツリーや花鉢を高齢者施設へ届けたりした。また、夏季研修会を行い外部の方と座談会を行うなど充実した活動ができた。	人権委員会の活動を、より生徒主体のものになろう工夫していく。
	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	C	公開授業は実施できなかったが、学校ホームページや「吉高人権だより」でホームルーム活動の様子を紹介・報告することができた。	授業の公開ができなかった際には、ホームルーム活動の内容をホームページ等で報告したい。
交流教育	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加平均2回以上/人を達成する。	C	参加した回数は低かった。活動内容や範囲を縮小せざるを得なかったが、熱心に活動することができた。	活動場所や活動内容を工夫し、ピュアマインドを年間3回実施する。生徒の参加率を上げていきたい。校外の各種ボランティアについては、生徒への発信をスムーズにしていきたい。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ180人以上を達成する。 A：180人以上 B：140人以上 C：90人以上 D：40人以上 E：40人未満	B	施設内での活動はできなかったが、吉田高校の特徴を生かし、廃材でプランターを作成し育てた花を複数回お届けする、という形で交流活動を行うことができた。	来年度も施設内での交流が困難であると予想されるため、現在の活動を継続できるように、今年度から春咲きの花の苗を育て始めるなど下準備をしておく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
環境整備	公共物を大切に、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による学期に1回の校内点検を実施する。 美化委員会の発表を年間1回以上行う。	C	校内点検は、学期に1回、年3回実施し、清掃が不十分な箇所について改善を行い、校内美化に努めた。また、美化委員の発表については、各クラスの美化委員がそれぞれのクラスで発表を行った。	清掃開始終了時間を守らせることを徹底し、校内美化に努める。また、美化委員会の活性化に努め、環境保護の意識の高揚を図る。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	B	学期に1回、年3回の定期点検の他、随時点検を行い、改善が必要な箇所については予算面で可能な限り対応できた。	安全点検を確実にを行うため、目的の周知を図る。また、随時点検の実施や連携を行うことにより、素早い改善ができるよう努める。

<マニフェスト以外に関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えるとともに、外部機関との連携を図る。	B	生徒個人面談を通して、生徒一人一人の状況を把握し、悩みや問題などに対応できるよう努めた。また、スクールライフアドバイザーとの連携により、生徒だけでなく保護者との相談も行い、家庭と協力して問題の解決に取り組むことができた。	教育相談窓口の一層の周知に努めるとともに、教職員間の情報共有や、スクールライフアドバイザー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識の高揚及び行動化を図る。	C	外部の専門機関による講座や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識を高められている。一方で、密集回避や換気など、一部感染予防について行動に結びついていない場面も見られる。	講座の実践や「保健だより」については継続していく。生徒による「保健だより」の作成や、換気や消毒の係を割り当てることにより、確実な感染予防行動の実践と、生徒の健康意識の高揚及び行動化を図る。
工業教育	ものづくりを通じた人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学年7回以上、匠の技教室年35回以上を実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：35回以上（見学7回） B：30回以上（見学6回） C：25回以上（見学5回） D：20回以上（見学4回） E：20回未満（見学4回）	C	工場・現場見学は、新型コロナウイルスの感染状況等を配慮して2回、延べ3社で実施した。匠の技教室は7業種延べ23回実施し、その内2回はクラス単位で体験した。 ものづくりコンテストでは、残念ながら四国大会、全国大会に出場することはできなかった。	工場見学や匠の技教室を多く実施することで、生徒が興味関心をもち、将来地域産業のスペシャリストとして活躍できるよう今後も指導を継続する。 ものづくりコンテストでは、四国大会、全国大会への出場を目指して、今後も指導を継続していく。
P T A 活動	協力体制のとれた P T A 諸活動の実施	P T A 諸活動（総会、交流会等）を保護者と協力して適切に行う。P T A 理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	B	昨年同様に新型コロナ感染症対策で各行事が中止、縮小となる中、可能な限りの活動は行うことができた。P T A 三役中心ではあるがよく尽力していただいた。	新型コロナが収まることを期待し、更なる情報発信に努める。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	効果的な予算執行を行う。	B	県費需用費上半期執行率71.9%（前年度75.8%） 県費（公費）、私費ともに早期の予算執行を心掛けた。	職員からの要望を聞き、早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行いたい。
		適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	職員間で事務処理方法について確認及び共通理解を図ることで、より適正な事務処理が行えるようにしたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間の適正化を図り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	I C T を活用し、文書や教材の共有を進めることができた。	来年度は「ノー残業デー」を設け、教職員の業務の効率化に対する意識を向上させたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	教職員が相談しやすい環境を維持することはできたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり親睦を深める取組が少なかった。	休憩時に気分転換できる場所づくりや、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた取組を模索したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。